琉球大学学術リポジトリ

観光インパクトに対する島嶼住民の評価

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学法文学部 公開日: 2008-01-08 キーワード (Ja): 観光インパクト, 居住地域, 評価, 住民特性, 西表島, 座間味・阿嘉島, 粟国島 キーワード (En): 作成者: 宮内, 久光, Miyauchi, Hisamitsu メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/2865

観光インパクトに対する島嶼住民の評価

宮 内 久 光
Hisamitsu Miyauchi

An Evaluation for Tourism Impacts by Residents of Small Islands

キーワード：観光インパクト、居住地域、評価、住民特性、西表島、座間味・阿嘉島、粟国島

Ⅰ．はじめに

『観光白書　平成15年版』（国土交通省編、2003）によると、国内旅行における国民一人当たりの宿泊観光旅行回数および宿泊数は、1991年がピークで、それぞれ1.73回、3.06泊を記録した。その後は減少傾向にあり、最新統計の2002年では、それらは1.41回と2.24泊にまで落ち込んでいる。国民の観光行動は景気の変動と対応している側面があり、バブル経済崩壊後の10年におよぶ経済不況が、観光行動を萎縮させているとも考えられる。

そのような中で、観光白書は国内旅行の「旅行先としては北海道、沖縄方面が好調である」ことを指摘している（p.13）。日本人の海外旅行者数も米国同時多発テロによる一時的な減少を除けば、堅調に推移していることから[1]、経済不況下で国民は一般的には「安・近・短」といわれる観光行動をとるが、一方では海外や北海道、沖縄のような長距離移動を伴う観光地も人気を有しているといえる。

沖縄県への入域観光客数は、2003年度で対前年度比5.2％増の5,084,700人

[1] 海外旅行は1991年に1,063万人であったが、2002年では1,652万人へと大幅に増加している（国土交通省編、2003）。

となり、初めて500万人の大台を突破した。2000年度の県民所得統計において、県外受取に占める観光産業の割合は17.3％に達している（4,127億円）。これは県外からの財政への移転（54.4％）に次いで大きな項目となっており、観光産業が沖縄経済を支える重要な柱の一つであることが伺える。観光客の増加は今後も見込まれ、2002年8月に策定された沖縄県観光振興計画では、2011年度には入域観光客数を650万人と設定している。

観光地理学の研究動向をまとめた鶴田（1994）によると、英語圏では①観光地と観光資源に関する認知及び観光行動に関する研究、②観光流動の分析、③観光施設・産業の立地に関する研究、④観光地の発展に関する研究、⑤観光現象の地域に対するインパクトの研究、⑥観光資源、景観の評価に関する分析、⑦観光地の開発計画、規制などに関する応用研究に分類されるとする。そして、①～⑥まで、ほとんど一貫して⑦の応用研究に収斂しようとする強い計画志向を有していることを指摘している。これに対して、日本における観光地理学は、個別観光地の形成・発展過程を追及した研究、および地域変容の一因としての観光分析を取り入れた研究が主流で[2]、対象地域の社会経済的文脈を強く意識し、発展史的に捉えている点で独自性が見られる。ただし、従来の研究は自然環境へのインパクトについての分析は少なく、応用研究的志向も希薄であったとしている（p.68-72）。

近年、我が国では地域活性化の方策として、観光振興を挙げる自治体および地域住民が多くなっている。その際、山村（1990）は「地域が観光地化してよりよい観光環境を形成するための指針となるべき方向性が明らかにされる必要があり」、「地域の個性を出すことが要求される観光地域の環境整備においては、歴史性を踏まえ、自然環境の保全に十分に配慮した地域計画が立案されねばならない」（p.15）ことを主張している。応用研究的志向が希薄であると指摘されている日本の観光地理学も、今後、この分野で貢献するこ

[2] 日本の観光地理学の研究動向は、鶴田（1994）は山村（1977）を踏まえている。

とが求められているといえよう。その中でも、山村（1990）は「観光地域における資源や環境の評価は、乱開発から自然を守り、自然環境の保全を踏まえた適正な観光地域を形成する上からも、応用地理学としての立場から果たすべき課題である。」（p.15-16）として、評価に関する研究の重要性を指摘している。

これは先述した鶴田による英語圏研究動向の⑥（観光資源、景観の評価に関する分析）に対応しているといえるが、評価はこれだけにはとどまらず、⑤（観光現象の地域に対するインパクトに対する評価）もあげられる。すなわち、観光地域に関する評価は、観光資源に対する評価とともに、観光化に伴う地域への影響評価も重要な課題となろう。

観光資源に対する評価に関する地理学的研究として、溝尾ほか（1975）があげられる。彼らは５人の専門家により全国の観光資源を特Ａ、Ａ、Ｂ、Ｃの４ランクに分類し[3]、392の観光資源を選定した後、それぞれについて14の尺度による評点をつけた。そして、因子分析を行うことで、各観光資源を総合的に評価できる新たな尺度として「格付け」「規模」「構図」「色」「ローカリティ」を抽出している。また、溝尾・大隈（1983）では、湖沼を事例に景観評価を行っている。このほか、山村（1990）は日本交通公社（1971）やアメリカ合衆国における観光地域評価について紹介をしている。また、西岡（1993）も同様に従来の観光資源評価の先例研究を紹介している。

地理学以外でも、丸井（1999）は伊豆半島における市町村を、７つの自然的・人文的観光資源から総合評価して順位をつけた。中島ほか（2001）は長野県飯山市「なべらく高原森の家」を事例に、来訪者に満足度を評価してもらい、その評価パターンを数量化Ⅲ類を用いて類型化している。直井（2002）は倉敷美観地区を対象に、訪問客にアンケート調査を実施し、歴史

[3] 特Ａは国際的なレベルの優れた観光資源、Ａは全国的なレベルで優れた観光資源、Ｂは地方（東北、九州など）レベルで優れた観光資源、Ｃは都府県レベルで優れた観光資源としている（溝尾ほか、1975）。

的町並みの評価を行っている。

一方、観光化に伴う地域への影響、これを本研究では観光インパクトとする。マシーソン・ウォール（1990）の観光の概念枠組み（図１）に従うと、観光インパクトは経済的、環境的、社会的の各インパクトに分類され、それ

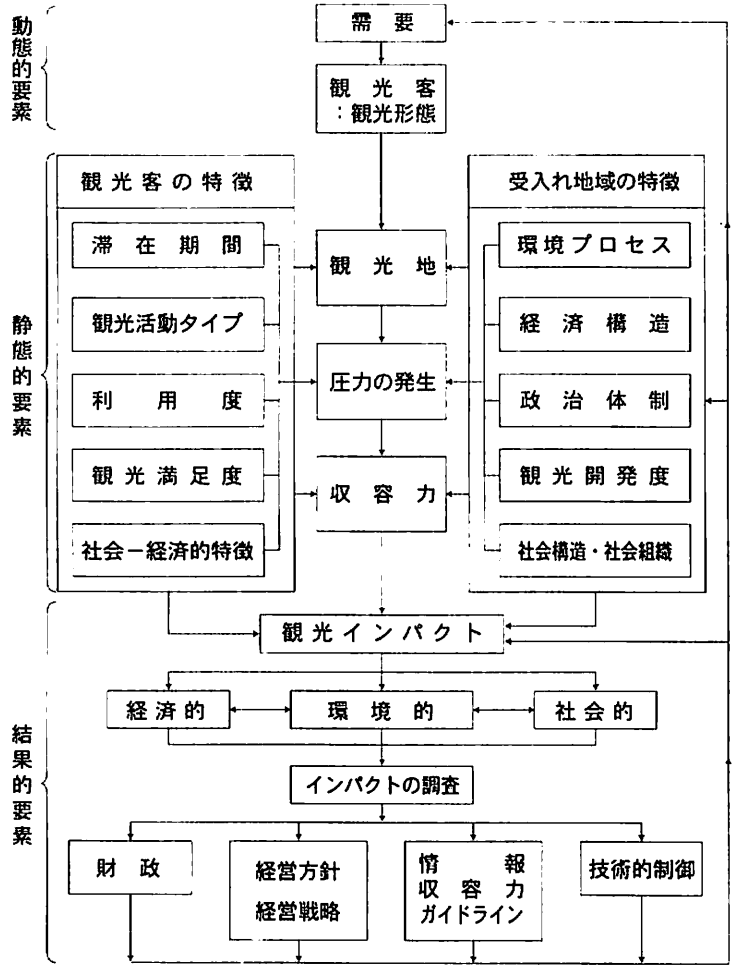

図１　観光の概念枠組み（マシーソン・ウォール、1990 による）

ぞれを評価する必要がある。中崎（1996）は経済的インパクトについては、地域社会への観光の直接効果として、雇用機会、所得確保、税収増大、産業振興を挙げている。環境的インパクトとしては、生態環境（昆虫・鳥類・水生生物など）の損傷、交通公害や災害（家事、土砂崩壊等）等の影響を、社会的インパクトとしては、地域住民や観光客同士の交流機会の増大を挙げている（p.87）。交流の結果、ホスト社会および住民に様々な影響を与えていることは容易に想像できる。

ところで、このような観光現象に対する評価の主体に関しては、①専門家や研究者によるもの、②観光客によるもの、③地域住民によるものに分類できよう。この中でも①と②が評価の主体とする研究が多い[4]。これに対して、兪ほか（2002）は観光資源の保全という視点から言えば、保全の主体としては観光客よりも地域住民の方が重要であり、地域住民の観光資源の保全に対する役割が必要不可欠として、地域住民が観光資源に対する評価の意義を指摘している（p.82）。そして、観光地沖縄の大学生へのアンケート調査で、沖縄における自然的資源、人文的資源、海洋性レジャー資源、レクリエーション資源の評価を行ってもらい、それを統計分析している。

地元住民からの評価は、このような観光資源に対してにとどまらず、観光化に伴う地域への影響評価でも重要だと思われる。しかし、このような視点に基づいた研究事例は少ないといえる。

そこで、本研究では観光化が進展した島嶼において、観光化が地域に与えた様々なインパクトを地域住民に評価をしてもらうと同時に、住民が居住する島をどのように自己認識、すなわち地域評価しているのか検討することを目的とする。その際、住民の特性、例えば年齢階級や居住歴、出身地などが異なるグループ間で評価に違いがみられるのかも検討してみる。

島嶼を対象にこのような研究を行うのは、物理的空間が狭小で明確化され

[4] 先述した観光評価に関する論文のうち、①の事例として溝尾ほか（1975）が、②の事例として中島ほか（2001）、直井（2002）が該当する。

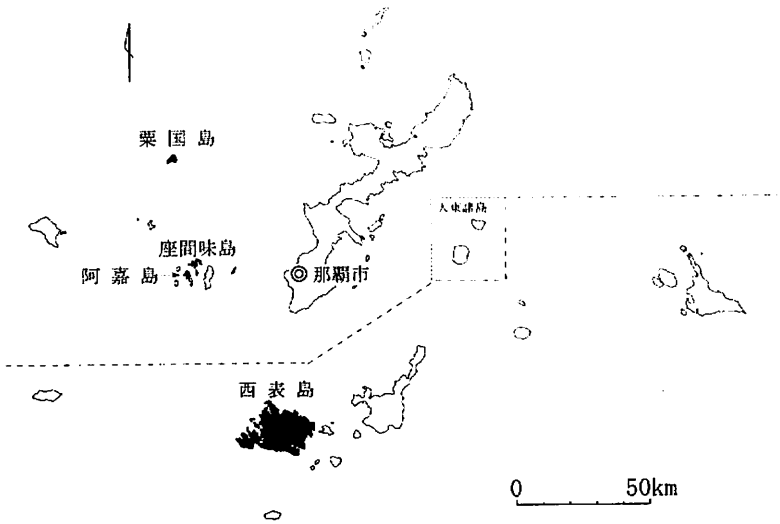

図2　研究対象島嶼

ている島嶼は、観光化のインパクトを受けやすいこと、そのため、観光インパクトによる地域の変化が現われやすく、地域住民が観光と地域変化の因果関係を踏まえてインパクトを評価することが可能である、と考えたからである。

観光インパクトの評価を行う研究対象島嶼は、沖縄県西表島と座間味・阿嘉島である（図2）。西表島は有人島では日本最南端の島を含む竹富町に属し、特異で貴重な生態系を有している。島の一部は西表国立公園に指定されている。近年はエコツーリズムの先進地域として知られている。一方、座間味島と阿嘉島は座間味村に属し、全域が沖縄海岸国定公園に指定されている。座間味・阿嘉島はスキューバダイビングのメッカとしてダイビング観光地が形成され[5]、近年ではホエールウォッチング観光も行われている。両島嶼地

[5] 座間味村におけるダイビング観光地の形成については、拙稿（1998）で詳しく論じた。

域とも観光化が進展しており、観光インパクトは島内の多岐に及んでおり、研究対象島嶼として取り上げるのはふさわしいと考えられる。なお、観光化の進展の程度により島嶼住民の居住地域への評価に差異が認められるのかを考察するために、観光化がなされていない粟国島を取り上げて比較する。粟国島は座間味・阿嘉島とほぼ同じ人口数、世帯数である。次の第1表は、3つの研究対象島嶼を人口、世帯数、入域観光客数、宿泊施設数から比較したものである。

第1表　研究対象島嶼の比較

島嶼名	人口数	世帯数	入域観光客数	宿泊施設数
西表島	1,976人	935世帯	315,839人	57軒
座間味・阿嘉島	946人	467世帯	69,949人	61軒
粟国島	960人	475世帯	18,796人	8軒

各項目2000年の数値である。

(2000年度国勢調査及び平成15年度離島関係資料より作成)

すでに筆者は、西表島住民に島のエコツーリズムに対して、座間味・阿嘉島へ嫁いだ県外出身女性に島の生活環境に対して、それぞれアンケート調査を実施して評価を明らかにしている（宮内、1998、2003)。しかし、両島嶼住民の、島に対する自己認識や観光インパクトに関する評価については尋ねておらず、今回このような調査を行うことは、全国各地、特に島嶼地域での今後の観光開発や観光政策を行う上でも、貴重な基礎資料となると思われる。

研究方法として、アンケート票を作成し、研究対象島嶼の住民に地域評価と観光インパクトに対する評価を5段階で答えてもらい、それを集計・考察することにより研究目的に接近する方法をとった。作成したアンケート票は20歳以上の成人を対象とし、居住島嶼の地域評価に関する9つの質問と、観光インパクトの評価に関する10の質問、および自由記述欄で構成されている。

2002年3月下旬、研究対象島嶼の全世帯にアンケート票を2部ずつ配布し

た。回答後のアンケート票は、郵送返却をしてもらった。回収したアンケート票のうち、有効回答枚数は、西表島が224枚、座間味・阿嘉島が87枚、粟国島は51枚であった。

先述したとおり、アンケートでは各質問を５段階評価のリッカート法を用いて回答してもらった。回収したアンケートは、質問ごとに単純集計をした後、評価得点とその標準偏差を算出した。評価得点とは、「全くそうだと思う」という回答を５、「ややそうだと思う」を４、「なんとも言えない」を３、「ややちがうと思う」を２、「全くちがうと思う」を１と得点換算し、その合計得点を回答者数で除した平均値である。評価得点が3.0を越えると、その質問が居住民の中で肯定的に、3.0未満だと否定的に評価されていることになる。標準偏差は回答者の評価の散ばり具合を示す指標で、この値が大きいと質問に関する評価が住民内で分かれていることを表わしている。

アンケートの結果分析に先立ち、アンケート回答者の特性（年齢、性別など）が、その島の全住民の特性を正しく反映しているのか、2000年国勢調査のデータと比較しながら適合性を確認した。第２表は、アンケート回答者と対象島嶼の全住民を、各特性別に実数と割合とを比較したものである。適合性を判定するためカイ２乗検定を行った結果、西表島と座間味・阿嘉島は、国勢調査のデータがある全ての特性（地区別・性別・年齢層別・産業別）で、５％水準の高い適合性が認められた。粟国島においては、他の研究対象島嶼とは特性の適合性が統計的には認められなかった。ただし、粟国島の回答者は男性、40-50歳代、農業関係者の割合が高いことに留意することで、以後の分析でアンケート結果の利用が可能であると判断した。

Ⅱ．居住島嶼に対する地域評価

本章では、居住島嶼に対する地域評価に関する９つの質問について、その結果を紹介する。アンケートの質問内容と集計結果は第３表に示した。質問は1-1から1-4までは島の自然環境、1-5は島の伝統文化、1-6から1-8までは

第2表　アンケート回答者と対象地域住民の特性別実数と割合

島名	西表島				座間味・阿嘉島				粟国島			
	回答者		全住民		回答者		全住民		回答者		全住民	
特性分類	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
合計/20歳以上人口	224	100.0	1,600	100.0	87	100.0	744	100.0	51	100.0	793	100.0
○地区別（20歳以上）												
東部／阿嘉島	87	38.8	632	39.5	30	34.5	275	37.0	△	△	-	-
西部／座間味島	137	61.2	968	60.5	57	65.5	469	63.0	△	△	-	-
○性別（20歳以上）												
男性	117	52.2	832	52.0	46	52.9	380	51.1	32	68.1	419	52.8
女性	107	47.8	768	48.0	41	47.1	364	48.9	15	31.9	374	47.2
○年齢階級別												
20-30歳代	64	28.6	530	33.1	38	43.7	290	39.0	8	17.0	184	23.2
40-50歳代	89	39.7	602	37.6	27	31.0	194	26.1	20	42.6	216	27.2
60歳以上	71	31.7	468	29.3	22	25.3	260	34.9	19	40.4	393	49.6
○出身地別												
島内	78	34.8	-	-	32	36.8	-	-	37	82.2	-	-
県内他市町村	40	17.9	-	-	14	16.1	-	-	5	11.1	-	-
県外都道府県	105	46.9	-	-	41	47.1	-	-	3	6.7	-	-
○居住年数別												
5年未満	56	25.0	-	-	22	25.3	-	-	5	9.8	-	-
5-19年	58	25.9	-	-	35	44.9	-	-	14	27.5	-	-
20-29年	34	15.2	-	-	12	13.8	-	-	7	13.7	-	-
30年以上	76	33.9	-	-	18	20.7	-	-	25	49.0	-	-
○産業別（15歳以上）												
第一・二次産業	50	22.3	381	25.0	5	5.7	40	5.0	23	46.0	129	16.1
第三次産業	47	21.0	277	18.2	17	19.5	142	17.6	8	16.0	122	15.2
サービス業	62	27.7	453	29.8	37	42.5	353	43.9	1	2.0	115	14.3
主婦	30	13.4	199	13.1	10	11.5	124	15.4	11	22.0	194	24.2
無職・その他	35	15.6	212	13.9	18	20.7	146	18.1	7	14.0	242	30.2
○観光収入の有無別												
直接収入あり	92	41.1	-	-	46	52.9	-	-	△	△	-	-
間接収入あり	39	17.4	-	-	8	9.2	-	-	△	△	-	-
収入なし	88	39.3	-	-	33	37.9	-	-	△	△	-	-

全住民のデータは、2000年国勢調査より算出している。
西表島の地区別は、東部が高那、古見、南風見仲、南風見の各字、西部が上原、西表、崎山の各字である。
西表島の国勢調査産業別人口は、1995年を基にした2000年の推計値である。
△はアンケートの調査項目がない、－はその項目に関する国勢調査が行われていないことを示している。
各特性の実数の合計は、不明分があるため総数と一致しない場合もある。
（アンケート結果および2000年国勢調査より作成）

島での日常生活や人間関係、1-9は島に居住する満足度に対して設けられ、それぞれについて５段階で評価を尋ねた。第３表は、西表島、座間味・阿嘉島、粟国島の対象島嶼ごとに、Ａ：評価得点、Ｂ：標準偏差、Ｃ：最多回答選択肢とその割合を掲載した。以下、質問ごとに集計結果を簡単に考察してみる。

質問1-1. 島は自然景観が素晴らしいと思う。

この質問に対して、評価得点は西表島が4.6、座間味・阿嘉島が4.7となり、全質問の中ではそれぞれ最高値を記録しているのに対して、粟国島（4.1）は相対的に評価が低くなっている。最多回答は全ての島嶼で⑤（全くそうだと思う）が挙げられているが、その選択肢を回答した割合が、西表島と座間味・阿嘉島では７割を超えているのに対して、粟国島は３割台にすぎない。すなわち、自然環境の良さを目玉として観光化が進展した島嶼は、居住民の自然景観に対する地域評価も高いことになる。

ただし、粟国島の自然景観は、西表島や座間味・阿嘉島と比較して、決して劣るものではないと思われる。これは、西表島や座間味・阿嘉島は国立公園や国定公園に指定され、観光客やマスコミ、専門家という「外部からの高い評価」を得ているが、居住民自身が外部評価を包摂することで、自然景観への高い評価につながっていると考えられる。しかし、粟国島のように素晴らしい自然景観を有していても、外部からの評価が低く、居住民にその価値が認識されない場合は、その評価も低いものになっていることが伺える。

質問1-2. 島付近の海に生きるサンゴや魚が素晴らしいと思う。

この質問は地域の海洋生態系についての評価を求めたものである。全ての島嶼で最多回答選択肢は⑤（全くそうだと思う）である。評価得点は座間味・阿嘉島の4.7が最高値で、西表島が4.5であるが、粟国島では3.2と相対的に低値である。

第3表　対象地域に対する自己評価

質問項目	島名	西表島 (n=224)	座間味・阿嘉島 (n=87)	粟国島 (n=51)
1-1. 島は自然景観が素晴らしいと思う。	A	4.6	4.7	4.1
	B	0.77	0.71	0.83
	C	⑤71.0	⑤70.1	⑤37.3
1-2. 島付近の海に生きるサンゴや魚が素晴らしいと思う。	A	4.5	4.7	3.2
	B	0.79	0.72	1.05
	C	⑤62.5	⑤74.7	⑤49.0
1-3. 島の動物や植物は貴重であると思う。	A	4.7	4.4	4.3
	B	0.66	0.82	0.89
	C	⑤76.8	⑤56.3	⑤52.9
1-4. 島の海岸線やビーチは汚染されていないと思う。	A	2.5	2.6	3.4
	B	1.21	1.22	1.35
	C	②31.7	②29.9	⑤27.5
1-5. 島には誇れる伝統文化や芸能があると思う。	A	4.5	3.3	4.0
	B	0.74	1.12	1.13
	C	⑤63.4	③29.9	⑤37.3
1-6. 島は那覇市までの交通アクセスがよいと思う。	A	3.5	3.7	3.6
	B	1.13	1.06	1.15
	C	④34.8	④44.8	④③29.4
1-7. 島は日常生活を送るにはほとんど不便がないと思う。	A	3.4	3.6	3.4
	B	1.28	1.07	1.45
	C	④29.9	④39.1	⑤27.5
1-8. 島の住民は「外から来た人」に対して開放的であると思う。	A	3.5	3.1	3.7
	B	1.08	1.11	1.38
	C	④37.9	③29.9	⑤37.3
1-9. 島に住んでいてよかったと思う。	A	4.4	4.1	4.1
	B	0.80	0.94	1.00
	C	⑤57.1	⑤42.5	⑤43.1

A：評価得点
B：標準偏差
C：最多回答選択肢（⑤～①）とその割合（%）
⑤全くそうだと思う　④ややそうだと思う　③なんとも言えない
②ややちがうと思う　①全くちがうと思う　（アンケート結果より作成）

座間味・阿嘉島は、特に海中景観が優れた区域が座間味海中公園地区に指定されており、近海は全国のダイバーにとって憧れの場所である。Marine

Diving誌の読者投票によると、沖縄県のダイビングエリアの中で、座間味・阿嘉島を含む慶良間エリアの人気が高かった（Marine Diving編集部、1995）。そのため、座間味・阿嘉島住民のこの質問に対する評価が高くなったと考えられる。粟国島も最多回答選択肢は⑤であるが、その割合は５割を切っている。標準偏差は1.00を超えていることから、住民内でも粟国島の海洋生態系に対する評価が分かれているといえる。

質問1-3. 島の動物や植物は貴重であると思う。

これは西表島の評価得点が4.7と突出している。西表島住民の76.8％がこの質問に⑤（全くそうだと思う）に回答している。この割合は、全対象島嶼の全質問の中でも最高値である。逆に、標準偏差は0.66と最低値である。すなわち、西表島住民は一致して島の陸上生態系を高く評価しているのである。西表島にはイリオモテヤマネコをはじめとして、リュウキュウイノシシ、ヤエヤマオオコウモリなどの哺乳類、カンムリワシ、カツオドリなどの鳥類、サキシマスオウノキやマングローブ林などの植物などが生息しており、学術的な価値が国際的にも認められている。西表島の住民もそれらを貴重なものと認識しているのである。

これに対して、座間味・阿嘉島と粟国島では、最多回答選択肢は⑤であるが、その回答割合は５割台である。評価得点、標準偏差共にほぼ等しく、西表島と比較すると相対的に評価は低い。海中生態系の評価が高い座間味・阿嘉島でも、陸上生態系は外部に誇れるだけの価値があるものとは認識されていないのである。

質問1-4. 島の海岸線やビーチは汚染されていないと思う。

西表島、座間味・阿嘉島の評価得点が2.5や2.6と極めて低く、粟国島が3.4と相対的に高かった。西表島の評価得点は全項目中でも最低である。評価得点が3.0より低いのは、住民の半分以上が③（なんとも言えない）より低い

評価しか与えていないことを意味している。最多回答選択肢は両島嶼とも②（ややちがうと思う）となっている。観光化が進展した島嶼ほど、自然環境を評価する一方で、現実に起こっている自然破壊を憂える声が高いのである。海岸汚染について具体的には、公共工事や農地開拓による海岸線の人工化や赤土流出などが自由記述欄から指摘されている。

質問1-5. 島には誇れる伝統文化や芸能があると思う。

評価得点は、西表島（4.5）、粟国島（4.0）、座間味・阿嘉島（3.3）の順であった。西表島は祖内や星立の節祭（シチ）をはじめとした伝統行事や、民話や島唄などの芸能が盛んなので、この質問に対する肯定感が強くなったと考えられる。座間味・阿嘉島でも旧暦９月末から10月初めに行われる種子取り行事（阿嘉島）など素晴らしい伝統行事が行われているが、それらは地元住民が代々受け継いできたもので、地域外の人にわざわざ見せるほど、つまり観光資源としては認識されていないため、この島の住民評価が低くなったものと考えられる。

質問1-6. 島は市制都市までの交通アクセスがよいと思う。

中心都市へのアクセシビリティに関する質問である。結果は、最多回答選択肢、評価得点、標準偏差ともに島嶼間における差異はほとんど認められなかった。西表島や座間味・阿嘉島は観光客の増加で、最寄りの市制都市である石垣市や那覇市と結ぶ航路の高速化や増便化が著しく、島嶼としては交通の便が極めてよい。例えば、旅客船運行回数からみてみると、西表島から石垣市までは２社が合わせて１日36往復も高速艇を運行している。座間味・阿嘉島も１日当たり高速艇が３往復、フェリーが１往復している。

筆者はかつてこれらの島から最寄りの市制都市までの期待所要時間[6]

[6] 中川ほか（1998）によると期待所要時間とは、「各時刻において、目的地に最も早く到着する時間を、出発便の時間までの待ち時間も含めて算出し、それを平均したもの。」と説明されている。すなわち、島嶼住民が中心都市まで「行きたい」と思った瞬間に、何分後に到着していると期待できるのか、という所要時間ともいえる。

（1999年２月現在）を計測したことがあるが（宮内、2000）、それは西表島で348分、座間味島で402分（阿嘉島は468分）、粟国島で454分であった。復帰前と比較すると、期待所要時間は大幅に短縮されている。

評価得点は座間味・阿嘉島（3.7）、粟国島（3.6）、西表島（3.5）の順である。最多回答選択肢は全島嶼とも④（ややそうだと思う）が選ばれた。交通アクセスに関しては３島嶼の住民はそれほど低い評価は与えていない。これは、島の住民は通勤通学などで毎日船舶を利用することが無く、もし中心都市へ移動する必要があれば、運行ダイヤに合わせて移動を計画するので、それほど時間的ロスが少なくてすみ、あまり不便を感じていないのかもしれない。

ただし、自由記述欄に「生活上どうしても那覇に行かなければならない時に（通院など）交通費がかかりすぎる」（座間味・阿嘉島）という記入に代表されるように、陸路の移動と比べて、時間距離はもとより運賃や欠航率の高さなど環海性ゆえの制約は、依然として大きい。

質問1-7. 島は日常生活を送るにはほとんど不便がないと思う。

日常生活に対する評価は、座間味・阿嘉島（3.6）が西表島や粟国島（各3.4）より若干高くなっているが、差異は小さい。⑤（全くそうだと思う）と回答した割合は、粟国島（27.5%）に多い。半数以上の人が島での日常生活に不便を感じていないという結果であり、島はインフラ整備の進み、商店などの施設立地もみられることから、狭いながらも完結された生活空間として機能していることが伺える。勿論、自由記述欄に「医療施設の充実が望まれる」（西表島）などの記入がみられることから、日常生活では余り不便を感じないが、いざという時の不安は大きいと思われる。

質問1-8. 島の住民は、「外から来た人」に対して開放的であると思う。

「外から来た人」とは具体的には島に転入した県外出身者を表わしている。

結果は、粟国島の評価得点が3.7と最も高く、最多回答選択肢も⑤（全くそうだと思う）であったが、座間味・阿嘉島では評価得点が3.1と低く、最多回答選択肢も③（なんともいえない）であった。すなわち、観光化されていない島嶼のほうが、観光化した島嶼より他地域からの転入者に対して好意を持っているといえる。観光化が進展すると、島出身者の旧住民と沖縄県外出身者の新住民の間にさまざまなコンフリクトが生じ、その結果新住民が否定的評価をするようになると考えられる。後述するが、座間味・阿嘉島ではこの質問に対し、島出身者の評価得点が3.6であるのに対して、県外出身者のそれは2.6になり、評価に大きな差異が出た。この傾向は他の島嶼でも同様であるが、人口に占める新住民の割合が高い座間味・阿嘉島で評価が低くなったのは、このような理由によると考えられる。

質問1-9. 島に住んでいてよかったと思う。

満足度を尋ねたこの質問は、評価得点が4.4～4.1の範囲に収まり、どの島嶼でも住民の満足度は比較的高く、観光化の進展度による評価の差異は認められない。前問までの質問で、居住者は島には誇れる自然環境があり、中心都市への交通アクセスや日常生活にある程度の満足感を有しているので、観光化の進展とは関係なく、肯定的評価になったと思われる。勿論、これは居住地域に対する愛着が根本にあることは容易に想像できる。

以上のように、本章では居住島嶼に対する地域評価を集計・考察したが、観光化の進展による差異が明確に認められるのは、質問項目の１、２、４であった。すなわち、観光化が進展している西表島と座間味・阿嘉島は、観光化が進んでいない粟国島と比較して、島の自然景観や海洋生態系に対する自己評価が高かったが、その一方で海岸線やビーチが観光化の進展に伴い汚染されていると強く感じているのである。

先述したが、粟国島の自然景観や海洋生態系も素晴らしい価値があるので、

専門家やマスコミ、観光客といった「外部の評価」の有無が住民の地域評価に影響を与えているといえる。また、海岸線やビーチの汚染は、地域社会に負の環境的インパクトを与えているとみなされる。

Ⅲ．観光インパクトに対する評価

本章では、西表島と座間味・阿嘉島の居住民を対象に行った10の設問によるアンケート結果の集計から、観光化の影響に対する評価について考察する。先述したマシーソン・ウォール（1990）は、観光インパクトを経済的、環境的、社会的インパクトに分類したので、アンケートは2-1と2-2を環境的インパクト、2-3と2-4を経済的インパクト、2-5と2-6を社会的インパクトに対応するように質問を設定した。このほか、観光による交流の度合いと、観光化による地域の自己認識の変化について2-7と2-8で尋ねた。2-9では旧住民と新住民との関係を、2-10では総合的に観光インパクトの評価を尋ねた。

アンケートの回答選択肢ごとの人数と割合（A）、評価得点（B）およびその標準偏差（C）を算出し、その結果を第４表に示した。以下、質問ごとに考察してみる。

質問2-1. 観光化が進んだが、近海のサンゴや魚は保全されていると思う。

質問2-2. 観光化が進んだが、島の動物や植物は保全されていると思う。

2-1で海洋生態系の保全、2-2で陸上生態系の保全がなされているかを尋ねた。結果は、西表島が両問とも評価得点が2.5、座間味・阿嘉島はどちらも2.8であった。肯定的な評価である⑤④の回答者合計数より、否定的評価である②①の回答者合計数が多いため、評価得点が3.0未満となっている。すなわち、水陸問わず自然環境の保全については、観光の環境的インパクトに対してマイナス面を感じている住民が多いことになる。

特に、両問に対する西表島での評価が低く、質問１で⑤（全くそうだと思う）が６人（2.7％）に過ぎないのに対して、①（全くちがうと思う）を選

んだ人が51人（22.8%）に上っている。同様に質問2では⑤は10人（4.5%）に対して、①は54人（24.1%）となっている。

ところで、自由記述欄には島の環境が破壊されていく原因として、西表島では道路工事や農地改良を、座間味・阿嘉島では道路工事と護岸工事を挙げる人が多かった。また、観光が環境に与えるインパクトとして、車の急増やゴミの増加、水利用の増大を指摘している。これらは公共事業などと比べると環境的インパクトは小さいと考えられるが、地域住民の中には観光化＝環境破壊という構図が出来あがっている人が多いようである。特に、エコツーリズムの先進地域である西表島では、エコツーリズムに基づく観光（エコツアー）に対して、それが自然環境に大きな負荷を与えているとの指摘が非常に多い[7]。

質問2-3. 観光化の影響で就職口が増えたため、雇用面でよかったと思う。

質問2-4. 観光化に伴う所得増加の恩恵は、住民全体に行き渡っていると思う。

今日、山地、半島、島嶼地域などで地域振興策として観光産業を活発化しようとする動きがみられる。観光の経済的インパクトの中でも、特に雇用と所得の創出を期待していることを拙稿（1998）で指摘した。そのため、経済的インパクトに関して2-3で雇用面、2-4で所得面について評価を尋ねた。

まず、雇用面に関しては、西表島で評価得点が3.1、座間味・阿嘉島で3.3であり、半数以上の人が肯定感を持っている。座間味・阿嘉島では観光産業が含まれるサービス業就業者数が、1980年の68人から2000年には326人へと

[7] 例えば、「ウミガメの産卵する浜で多人数で何日もキャンプをしたり、海鳥が営巣する島へ上陸したり、カヌーを牽引しながら90km以上で走り抜けたりしている」「客数や月に何回、その場所（道）へ行ってよいのか規制がないので、自然がどんどん悪化してきています」「エコツーが行う遊覧船の影響でマングローブ、サキシマスオウノキ、サバソバナなどの倒木があり、エコツーの方向性がずれている」など、エコツーリズムの理念と現実に行われているエコツアーの実態の乖離を指摘するものが多い。

第４表　観光化の影響に対する評価

質問項目	島名／項目		西表島 (n＝224)		座間味・阿嘉島 (n＝87)	
2-1. 観光化が進んだが、近海のサンゴや魚は保全されていると思う。	A	B	2.5	1.13	2.8	1.06
	C	⑤	6人	2.7%	3人	3.4%
		④	39	17.4	19	21.8
		③	**65**	**29.0**	**29**	**33.3**
		②	53	23.7	22	25.3
		①	51	22.8	11	12.6
		-	10	4.5	3	3.4
2-2. 観光化が進んだが、島の動物や植物は保全されていると思う。	A	B	2.5	1.19	2.8	0.99
	C	⑤	10	4.5	2	2.3
		④	39	17.4	17	19.5
		③	52	23.2	**34**	**39.1**
		②	**57**	**25.4**	21	24.1
		①	54	24.1	10	11.5
		-	12	5.4	3	3.4
2-3. 観光化の影響で就職口が増えたため、雇用面でよかったと思う。	A	B	3.1	1.10	3.3	1.13
	C	⑤	21	9.4	10	11.5
		④	60	26.8	**28**	**32.2**
		③	**78**	**34.8**	27	31.0
		②	33	14.7	11	12.6
		①	20	8.9	8	9.2
		-	12	5.4	3	3.4
2-4. 観光化に伴う所得増加の恩恵は、住民全体に行き渡っていると思う。	A	B	2.6	1.17	2.4	1.03
	C	⑤	13	5.8	0	0.0
		④	30	13.4	12	13.8
		③	**66**	**29.5**	**28**	**32.2**
		②	55	24.6	22	25.3
		①	48	21.4	22	25.3
		-	12	5.4	3	3.4
2-5. 観光化の影響で島の人口が増え、若い世代を中心に島が以前より活気付いたと思う。	A	B	3.2	1.06	3.8	0.96
	C	⑤	25	11.2	19	21.8
		④	**78**	**34.8**	**40**	**46.0**
		③	69	30.8	18	20.7
		②	25	11.2	4	4.6
		①	15	6.7	3	3.4
		-	11	4.9	3	3.4

質問項目	島名／項目		西表島		座間味・阿嘉島	
2-6. 観光客が島に滞在するようになり、風紀が乱れたと思う。	A	B	3.1	0.95	3.3	0.96
	C	⑤	15	6.7	6	6.9
		④	52	23.2	30	34.5
		③	**98**	**43.8**	**34**	**39.1**
		②	36	16.1	8	9.2
		①	11	4.9	5	5.7
		－	12	5.4	4	4.6
2-7. 観光化の影響で全国各地の人々と交流が深まったと思う。	A	B	3.5	1.00	3.8	0.91
	C	⑤	30	13.4	17	19.5
		④	**86**	**38.4**	**41**	**47.1**
		③	65	29.0	18	20.7
		②	22	9.8	7	8.0
		①	9	4.0	1	1.1
		－	12	5.4	3	3.4
2-8. 観光化の影響で自分自身島の良さを再認識できたと思う。	A	B	3.3	1.18	3.3	0.99
	C	⑤	41	18.3	10	11.5
		④	51	22.8	22	25.3
		③	**78**	**34.8**	**42**	**48.3**
		②	22	9.8	3	3.4
		①	20	8.9	6	6.9
		－	12	5.4	4	4.6
2-9. 島の中で島出身の住民と島外出身の住民が、お互い良好な関係を保っていると思う。	A	B	3.2	1.10	3.4	0.88
	C	⑤	19	8.5	5	5.7
		④	68	30.4	**36**	**41.4**
		③	**71**	**31.7**	30	34.5
		②	34	15.2	11	12.6
		①	20	8.9	2	2.3
		－	12	5.4	3	3.4
2-10. 観光化に伴う島の近年の変化は全般的によい方向だと思う。	A	B	2.9	1.11	3.1	0.96
	C	⑤	14	6.3	3	3.4
		④	48	21.4	27	31.0
		③	**83**	**37.1**	**34**	**39.1**
		②	37	16.5	14	16.1
		①	31	13.8	6	6.9
		－	11	4.9	3	3.4

A：評価得点
B：標準偏差
C：選択肢（⑤～①）の回答数とその割合（%）（太字は最多回答選択肢）
⑤全くそうだと思う　④ややそうだと思う　③なんとも言えない
②ややちがうと思う　①全くちがうと思う　－不明，無回答
（アンケート結果より作成）

約4.8倍に増加した（国勢調査結果）。全就業者に占める割合も16.5％から65.9％を占めるに至る。西表島でも同期間では実数で218人から492人、割合は26.0％から41.9％へと増加している。統計的には、1980年からの20年間では西表島よりも座間味・阿嘉島の方が観光による雇用面への影響が大きい。そのため、住民評価も座間味・阿嘉島の方が高くなったものと思われる。しかし、その座間味・阿嘉島にしても、⑤（全くそう思う）を選択した人は10人（11.5％）に過ぎず、現実と評価にはギャップがあるといえる。

所得面に関する2-4に関しては、西表島で評価得点が2.6、座間味・阿嘉島で2.4であり、半数以上の人が否定感を持っている。沖縄県市町村民所得統計によると、統計が得られる1982年度では、座間味・阿嘉島を含む座間味村の村民一人当たり所得は1,024千円であった。これは県平均を100.0とした指数で76.1に過ぎなかった。ところが、2000年では座間味村民一人当たり所得は2,371千円に倍増し、指数も111.6となった。両期間で指数は35.5ポイントも上昇している。一方、西表島を含む竹富町のそれは、1,340千円（99.6）から2,349千円（110.5）に増加している。どちらの島も、明らかに観光化が住民の所得の向上に結びついているのであるが、アンケート結果では否定的な評価となった。これは質問が、所得増加したかどうかだけではなく、その恩恵が住民全体に行き渡っているかどうかを尋ねていることに起因すると思われる。

後述するが、評価が低かった座間味・阿嘉島について、観光産業から収入を得ているグループと、収入を得ていないグループに分けてこの質問を再集計してみると、収入を得ているグループの評価得点は2.6、得ていないグループのそれは2.0であり、両グループ間で評価に差異がみられた。これは、観光産業に関係の無い人、例えば建設業就業者や年金生活の高齢者などからすると、観光の収益は観光産業に従事している人だけに恩恵を及ぼしており、自分たちには関係がないと思われていると解釈できる。また、観光産業に関係している人からの評価も低いことから、観光から期待するほど十分な収入

を得ていないことも推察される。

質問2-5. 観光化の影響で島の人口が増え、若い世代を中心に島が以前より活気付いたと思う。

質問2-6. 観光客が島に滞在するようになり、風紀が乱れたと思う。

2-5、2-6は観光の社会的インパクトについて評価したものである。

まず、2-5では座間味・阿嘉島で評価得点が3.8と高くなり、西表島でも3.2となった。座間味・阿嘉島では約7割の人が肯定的評価をしている。座間味・阿嘉島ではダイビング観光が盛んになった1980年以降、人口が増加している。その増加分の多くは観光産業に従事するため島に転入した若年層の本土都道府県出身者である。また、雇用の場が整った島には環流者も多くなる。島に居住する若年男性は、島内で結婚する機会に恵まれており、自然増加率も上ってきている。若年層を中心に各行事、イベントなどが盛んに行われている。西表島でも同様な傾向にあり、過疎化や高齢化で島社会の活力低下に悩んでいる全国の多くの島嶼とは異質な存在となっている。

風紀も乱れを問う2-6は、評価得点が高いほど負のインパクトを感じていることになる。結果は、西表島が3.1、座間味・阿嘉島で3.3であり、やはり住民は風紀の乱れを憂えている。具体的には、「風紀が乱れている。水着で公道を歩く、道の真ん中を歩く観光客多し」（座間味・阿嘉島）との自由記述[8]に代表されるように、観光客が開放感に浸るあまり、普段ではやらないこと、やれないことを旅行先でやってしまうことに対して、住民は冷ややかな目で見ていることがわかる。

質問2-7. 観光化の影響で全国各地の人々と交流が深まったと思う。

---

[8] このほか、自由記述欄には「観光客のマナーが悪すぎる（空き缶ポイ捨てが多い）」、「キャンプ場及びシャワー・トイレ施設の使い方がひどすぎる」などの書き込みがみられた。

質問2-8. 観光化の影響で自分自身が島の良さを再認識できたと思う。

2-7では両島とも、④（ややそうだと思う）が最多回答選択肢であった。評価得点は西表島で3.5、座間味・阿嘉島で3.8となり、それぞれ全質問中、最高値を記録した。全ての観光インパクトの中で、観光の交流効果が最も評価されているのである。

2-8は肯定的回答が約４割を占め、観光化をきっかけにして住民自身が島の良さを再評価している様子が伺える。2-7、2-8とも観光化による良い影響といえる。

質問2-9. 島の中で島内出身の住民と島外出身の住民が、お互い良好な関係を保っていると思う。

この質問は、旧住民と新住民の関係を問うたものである。両島とも評価得点は3.0を超えていて、肯定的評価となっている。観光化に伴い、島外出身者の流入が多くなったため、旧住民と新住民との間にはさまざまな点でコンフリクトが予想される。自由記述欄にもお互いに対する否定的見解が記入されているが、全体としては大きな社会問題までには至っていないといえる。

質問2-10. 観光化に伴う島の近年の変化は全般的に良い方向だと思う。

最後の質問は、総合的に観光化の評価を尋ねた。結果は、両島とも③（なんとも言えない）が最多回答選択肢で、評価得点も西表島が2.9、座間味・阿嘉島が3.1で、平均の3.0に近くなった。若年層の増加による島の活性化や、全国の人々との交流といった点では、観光化がプラスに評価されたが、半面、観光化は自然環境を保全しておらず、経済的な効果も実感できない、というマイナス面もあるため、最終評価は差し引きゼロといったところである。

ところで、第４表で西表島と座間味・阿嘉島を比較してみると、全ての質問への回答が、いずれも同じ傾向を示していることがわかる。どちらの島も、自然環境の良さを最大の観光資源とし、外部の大資本による大規模リゾート

開発を行わずに観光化を進めてきた。全国の島嶼の観光化も同様な形態をとるところが多い。今回、観光化の形態が類似している２つの島で、観光インパクトへの評価がほぼ同じであるので、これらの結果は、観光化が進展した他の島嶼にも一般化できる可能性がある。

Ⅳ. 住民特性による地域評価や観光インパクト評価の差異

本章では、性別、年齢、出身地など住民の特性によって、居住地域や観光化の影響に対する評価に違いがみられるのか検討してみる。住民特性は、居住地区（粟国島は除く）、性別、年齢階級、出身地、居住年数、産業、観光収入の有無の７特性を採用し、グループごとにアンケート結果を再集計した。第５表は西表島、第６表は座間味・阿嘉島、第７表は粟国島の結果である。特性内で評価に違いが見られるかを、クラスカル・ウォリス検定を用いて判定した。

まず、各表で居住地域に関する評価（質問1-1～1-9）について、住民特性グループ間による評価の差異をみてみる。アスタリスク（＊）が付いているものが特性内グループ間で差がある質問である。ここではそれらを取り上げ考察する。

第５表の西表島では、アスタリスクが最も多い特性は居住年数である。1-2、1-4、1-6、1-8、1-9の5つの質問に対して、グループ間で評価の違いが確認された。このうち、1-2、1-4、1-8の質問は年齢階級や出身地でも差異が認められる。このことから、年齢が若く、西表島での居住歴が短い県外出身の新住民は、高齢で居住歴が長い島出身の旧住民と比較して、西表島のサンゴや魚など海洋生態系を評価しているが、海岸線の汚染を憂えている。また、新住民は島の旧住民が自分たちを受け入れているとは思っておらず、島に住む満足感も相対的に低いことが解釈できる。

座間味・阿嘉島の結果を表わした第６表（1-1～1-9）からは、年齢階級、出身地、居住年数で同じ質問（1-4、1-6、1-8）に対して、グループ間の評

第５表　西表島における住民特性別評価得点

調査分類	居住地域に関する評価								
質問番号	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9
質問項目	西表島は自然景観（風景）が素晴らしいと思う。	西表島付近の海に生きるサンゴや魚が素晴らしいと思う。	西表島の動物や植物は貴重であると思う。	西表島の海岸線やビーチは汚染されていないと思う。	西表島には誇れる伝統文化や芸能があると思う。	西表島は石垣市までの交通アクセスがよいと思う。	西表島は日常生活を送るにはほとんど不便がないと思う。	西表島の住民は「外から来た人」に対して開放的であると思う。	西表島に住んでいてよかったと思う。
西表島合計	**4.6**	**4.5**	**4.7**	**2.5**	**4.6**	**3.5**	**3.4**	**3.5**	**4.4**
○居住地区		**	*		**				
東　部	4.6	4.4	4.6	2.7	4.3	3.6	3.4	3.4	4.3
西　部	4.7	4.6	4.8	2.4	4.7	3.4	3.4	3.6	4.5
○性　別			*		*				
男　性	4.6	4.5	4.6	2.6	4.4	3.5	3.4	3.5	4.4
女　性	4.7	4.5	4.8	2.4	4.7	3.5	3.4	3.6	4.4
○年齢階級		*		**				**	
20-30歳代	4.7	4.7	4.8	2.2	4.5	3.4	3.3	3.3	4.3
40-50歳代	4.6	4.6	4.8	2.5	4.6	3.4	3.4	3.4	4.4
60歳以上	4.5	4.3	4.6	3.0	4.5	3.7	3.6	4.0	4.6
○出身地		*		*				**	*
西表島内	4.6	4.4	4.7	2.8	4.6	3.6	3.3	3.8	4.5
県内他市町村	4.5	4.3	4.6	2.6	4.6	3.6	3.5	3.8	4.6
県外都道府県	4.7	4.7	4.8	2.3	4.5	3.4	3.5	3.2	4.3
○居住年数		*		*		*		**	**
５年未満	4.7	4.7	4.7	2.4	4.5	3.2	3.1	3.2	4.2
5-19年	4.5	4.5	4.8	2.2	4.5	3.4	3.5	3.3	4.4
20-29年	4.8	4.7	4.9	2.8	4.6	3.6	3.3	3.3	4.4
30年以上	4.5	4.3	4.6	2.8	4.6	3.8	3.6	4.1	4.7
○産　業		*							
第一・第二次産業	4.4	4.3	4.5	2.7	4.4	3.6	3.5	3.8	4.5
第三次産業	4.8	4.6	4.7	2.3	4.6	3.4	3.3	3.3	4.3
観光産業	4.7	4.7	4.8	2.4	4.6	3.7	3.6	3.6	4.5
主婦	4.6	4.3	4.9	2.6	4.7	3.4	3.1	3.2	4.3
無職・その他	4.5	4.5	4.7	2.7	4.6	3.4	3.7	3.7	4.5
○観光収入の有無	*	*							
観光から直接収入あり	4.8	4.7	4.8	2.7	4.6	3.6	3.4	3.6	4.4
観光から間接収入あり	4.6	4.4	4.7	2.2	4.6	3.4	3.2	3.3	4.2
観光から収入なし	4.4	4.4	4.6	2.4	4.5	3.5	3.6	3.5	4.5

クラスカル・ウォリス検定　　*は５％水準で有意、**は１％水準で有意。

観光インパクトに対する島嶼住民の評価

観光化の影響に対する評価									
2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
観光化が進んだが、近海のサンゴや魚は保全されていると思う。	観光化が進んだが、島の動物や植物は保全されていると思う。	観光化の影響で就職口が増えたため、雇用面でよかったと思う。	観光化に伴う所得増加の恩恵は住民全体に行き渡っていると思う。	観光化の影響で西表島の人口が増え、若い世代を中心に島が以前より活気付いたと思う。	観光客が島に滞在するようになり、風紀が乱れたと思う。	観光化の影響で全国各地の人々と交流が深まったと思う。	観光化の影響で自分自身が西表島の良さを再認識できたと思う。	島の中で西表島出身の住民と島外出身の住民が、お互い良好な関係を保っていると思う。	観光化に伴う西表島の近年の変化は全般的によい方向だと思う。
2.5	2.5	3.1	2.6	3.3	3.1	3.5	3.3	3.2	2.9
	**	**		*					
2.6	2.8	3.5	2.7	3.5	3.2	3.4	3.4	3.2	3.1
2.5	2.3	2.9	2.5	3.2	3.1	3.6	3.3	3.1	2.8
2.6	2.6	3.1	2.5	3.3	3.2	3.5	3.3	3.1	3.0
2.4	2.4	3.2	2.6	3.4	3.0	3.5	3.3	3.3	2.8
**	**			**			**	**	**
2.2	2.1	3.1	2.5	3.3	3.0	3.6	3.0	3.0	2.6
2.5	2.4	3.0	2.4	3.1	3.2	3.3	3.2	2.9	2.7
2.9	3.1	3.3	2.9	3.8	3.2	3.6	3.8	3.6	3.5
**	**		*	*			**	*	**
2.7	3.0	3.3	2.8	3.6	3.2	3.6	3.7	3.3	3.4
3.0	2.7	3.1	2.8	3.4	3.3	3.4	3.6	3.4	3.3
2.2	2.1	3.0	2.3	3.2	3.0	3.5	3.0	3.0	2.4
**	**			**			**		**
2.5	2.5	3.2	2.4	3.3	3.0	3.7	3.2	3.1	2.5
2.1	2.1	3.1	2.5	3.1	3.0	3.4	2.9	3.1	2.7
2.6	2.4	3.0	2.4	3.1	3.1	3.3	3.3	3.1	2.7
2.8	3.0	3.2	2.8	3.7	3.3	3.6	3.9	3.3	3.5
						*		*	
2.7	2.7	3.0	2.6	3.4	3.2	3.4	3.2	3.1	3.1
2.5	2.6	3.0	2.6	3.2	3.3	3.5	3.3	2.9	2.8
2.5	2.3	3.3	2.7	3.5	2.9	3.8	3.5	3.4	2.9
2.4	2.3	3.1	2.5	3.2	3.2	3.1	3.1	2.9	2.6
2.6	2.7	3.4	2.5	3.4	3.0	3.4	3.6	3.6	3.2
		**	*	*		**			
2.7	2.6	3.4	2.8	3.5	3.0	3.8	3.5	3.3	2.9
2.3	2.5	3.3	2.4	3.5	3.0	3.4	3.3	3.1	2.9
2.4	2.4	2.8	2.4	3.1	3.3	3.2	3.2	3.0	2.9

（アンケート結果より作成）

第６表　座間味・阿嘉島における住民特性別評価得点

調査分類	居住地域に関する評価								
質問番号	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9
質問項目	座間味島は自然景観（風景）が素晴らしいと思う。	座間味島付近の海に生きるサンゴや魚が素晴らしいと思う。	座間味島の動植物は貴重であると思う。	座間味島の海岸線やビーチは汚染されていないと思う。	座間味島の伝統文化や芸能は貴重であると思う。	座間味島は那覇市までの交通アクセスが良いと思う。	座間味島は日常生活を送るにはほとんど不便がないと思う。	座間味島の住民は「外から来た人」に対して開放的であると思う。	座間味島に住んでいて良かったと思う。
座間味・阿嘉島合計	**4.7**	**4.7**	**4.4**	**2.6**	**3.3**	**3.7**	**3.6**	**3.1**	**4.1**
○居住地区					**			*	
阿嘉島	4.5	4.6	4.7	2.3	3.8	3.6	3.4	2.7	3.9
座間味島	4.7	4.8	4.3	2.8	3.0	3.8	3.7	3.4	4.2
○性　別				*		*			
男　性	4.6	4.6	4.5	2.9	3.3	3.9	3.6	3.2	4.1
女　性	4.7	4.8	4.4	2.3	3.3	3.5	3.5	3.1	4.1
○年齢階級				*		*		**	
20-30歳代	4.6	4.8	4.4	2.6	3.2	3.4	3.5	2.8	4.1
40-50歳代	4.7	4.7	4.5	2.2	3.3	4.0	3.5	3.0	4.0
60歳以上	4.7	4.6	4.3	3.2	3.5	4.0	3.7	3.8	4.3
○出身地				*		**		**	
座間味・阿嘉島内	4.7	4.6	4.4	3.1	3.4	4.2	3.9	3.6	4.3
県内他市町村	4.8	4.7	4.5	2.2	2.7	3.8	3.5	3.6	3.9
県外都道府県	4.6	4.8	4.4	2.4	3.4	3.4	3.4	2.6	4.1
○居住年数				*		*		**	
５年未満	4.9	4.9	4.6	3.0	3.2	3.3	3.4	3.6	3.9
５-19年	4.6	4.8	4.4	2.1	3.2	3.6	3.4	2.6	4.2
20年以上	4.6	4.5	4.3	3.0	3.4	4.1	3.9	3.5	4.2
○産業					**			*	
観光産業	4.6	4.7	4.6	2.6	3.8	3.7	3.7	2.7	4.2
その他の産業	4.8	4.7	4.3	2.8	2.7	3.8	3.7	3.3	4.1
主婦・無職・その他	4.6	4.7	4.3	2.6	3.2	3.8	3.4	3.4	4.0
○観光収入の有無			*					*	
観光から収入あり	4.7	4.8	4.6	2.7	3.5	3.7	3.7	2.9	4.3
観光から収入なし	4.6	4.6	4.2	2.6	3.0	3.8	3.4	3.5	3.9

クラスカル・ウォリス検定　　*は５％水準で有意、**は１％水準で有意。

阿嘉島住民に対する質問は、座間味島を阿嘉島に置き換えたアンケート票を用いた。

観光化に対する評価									
2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
観光化が進んだが、近海のサンゴや魚は保全されていると思う。	観光化が進んだが、島の動物や植物は保全されていると思う。	観光化の影響で就職口が増えたため、雇用面でよかったと思う。	観光化に伴う所得増加の恩恵は、住民全体に行き渡っていると思う	観光化の影響で座間味島の人口が増え、若い世代を中心に島が以前より活気付いたと思う	観光客が島に滞在するようになり、風紀が乱れたと思う。	観光化の影響で全国各地の人々と交流が深まったと思う。	観光化の影響で自分自身が座間味島の良さを再認識できたと思う。	島の中で座間味島出身の住民と島外出身の住民がお互い良好な関係を保っていると思う。	観光化に伴う座間味島の近年の変化は全般的によい方向だと思う。
2.8	2.8	3.3	2.4	3.8	3.3	3.8	3.3	3.4	4.7
* 2.5 2.9	2.7 2.8	* 2.8 3.5	2.2 2.4	3.6 3.9	3.2 3.4	3.7 3.8	3.4 3.3	3.4 3.4	2.9 3.2
2.8 2.7	2.8 2.7	3.4 3.1	2.4 2.3	3.9 3.7	3.2 3.4	3.7 3.9	3.3 3.3	3.3 3.4	3.2 2.9
2.6 2.7 3.3	2.7 2.8 2.9	3.3 2.9 3.6	2.3 2.5 2.4	3.6 3.8 4.1	3.1 3.4 3.4	3.8 3.8 3.7	3.4 3.0 3.6	3.4 3.0 3.7	3.1 2.8 3.4
3.1 2.4 2.6	2.9 2.5 2.8	3.5 3.1 3.2	2.4 2.0 2.5	4.1 3.3 3.8	** 3.6 3.7 3.0	** 3.8 3.2 4.0	3.6 3.0 3.2	3.5 3.3 3.3	3.3 2.9 3.0
2.8 2.6 3.0	2.6 2.7 2.9	3.3 3.1 3.5	2.0 2.6 2.4	* 3.4 3.8 4.1	3.1 3.2 3.6	3.7 3.9 3.7	3.1 3.2 3.7	3.4 3.3 3.4	3.1 2.9 3.2
2.6 2.8 3.0	2.6 2.9 2.8	3.3 3.4 3.1	* 2.7 2.2 2.2	3.9 3.7 3.8	3.0 3.5 3.4	** 4.2 3.5 3.6	3.6 3.4 3.0	3.4 3.2 3.5	3.1 3.1 3.1
2.8 2.8	2.8 2.7	3.4 3.1	** 2.6 2.0	* 4.0 3.5	3.3 3.3	** 4.0 3.4	* 3.5 3.1	3.4 3.2	3.2 2.9

（アンケート結果より作成）

第７表　粟国島における住民特性別評価得点

調査分類	居住地域に関する評価								
質問番号	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9
質問項目	粟国島は自然景観（風景）が素晴らしいと思う。	粟国島付近の海に生きるサンゴや魚が素晴らしいと思う。	粟国島の動植物は貴重であると思う。	粟国島の海岸線やビーチは汚染されていないと思う。	粟国島の伝統文化や芸能は貴重であると思う。	粟国島は那覇市までの交通アクセスが良いと思う。	粟国島は日常生活を送るにはほとんど不便がないと思う。	粟国島民は「外から来た人」に対して開放的であると思う。	粟国島に住んでいて良かったと思う。
粟国島合計	**4.2**	**4.2**	**4.3**	**3.4**	**4.0**	**3.6**	**3.4**	**3.7**	**4.2**
○性　別						*			
男　性	4.2	4.2	4.3	3.3	4.1	3.8	3.5	3.8	4.3
女　性	4.2	4.1	4.3	3.2	3.7	2.9	2.8	3.3	4.1
○年齢階級							*		
20-30歳代	4.0	3.7	4.2	2.7	3.2	2.6	2.0	2.6	3.6
40-50歳代	4.3	4.2	4.4	3.1	4.0	3.6	3.4	3.8	4.4
60歳以上	4.2	4.5	4.4	3.4	4.2	3.6	3.3	3.7	4.3
○出身地					*	*	**	**	**
粟国島内	4.2	4.3	4.4	3.3	4.2	3.7	3.6	4.0	4.4
粟国島外	3.9	3.5	4.1	2.8	3.1	2.6	2.0	2.3	3.1
○居住年数		*			*			*	**
９年未満	4.1	3.8	4.2	2.9	3.1	2.8	2.3	2.6	3.3
10-29年	3.9	3.8	4.2	2.8	3.9	3.4	3.2	3.6	4.3
30年以上	4.3	4.6	4.5	3.5	4.3	3.7	3.3	3.8	4.5
○産業									
第一・第二次産業	4.3	4.6	4.4	3.0	3.9	3.6	3.4	4.0	4.5
第三次産業	4.0	3.7	4.6	2.7	4.0	3.2	2.9	3.1	4.4
主婦	4.2	3.9	4.1	3.1	3.7	2.9	2.5	3.1	3.8
無職・その他	4.0	4.1	4.3	3.0	3.6	3.2	2.6	3.0	3.9

クラスカル・ウォリス検定　　*は５％水準で有意、**は１％水準で有意。

（アンケート結果より作成）

価の差異が認められる。ここでも、若くて居住歴が短い県外出身の新住民と高齢で居住歴が長い島内出身の旧住民とでは評価に違いが出てくるのである。粟国島でも、出身地が５ヶ所、居住年数が４ヶ所にアスタリスクが付いてい

る。

3つの対象島嶼のアンケート結果を比較して、居住地域に関する評価では、年齢階級や出身地、居住年数といった住民特性の違いが、評価の違いとして表れてきていることが共通している。特に、旧住民と新住民では評価が差異が認められ、一般的に旧住民の方が現状に満足している傾向がある。観光化の進展した西表島や座間味・阿嘉島では新住民の数や割合が多いので、その傾向が強く表れている。これに対して、居住地区別、性別や産業別、観光からの収入の有無などの住民特性では、グループ間であまり評価に違いがみられなかった。

最後に、観光化の影響に関する評価に関して、住民特性による違いが見られるのかを検討してみる。西表島に関しては（表5）、出身地が7つの質問で、年齢階級が6つの質問で、居住年数と観光収入の有無が5つの質問で評価に差異が出ている。これも先述した新住民と旧住民の評価の違いといえる。質問のうち、環境保全や村の活気、島の良さの再認識、全体評価に関しては、出身地、年齢層、居住年数で評価の違いがみられた。この他、経済的効果、全国との交流に関しては、観光収入の有無で評価の違いがみられた。観光の経済的効果に関しては、観光から収入があるグループが高く評価をしているのに対し、観光から収入を得ていない住民からの評価は低い。

座間味・阿嘉島では（表6）、観光収入の有無により5つの質問で評価に違いが出ている。座間味・阿嘉島では、観光から収入を得ている住民が、観光インパクトに対して肯定的評価をしているのに対して、観光収入の無い住民は、その評価が低くなっているのである。

V．おわりに

本研究は、観光化が進展している島嶼で、住民が自分たちの居住地域や観光インパクトをどのように評価しているのかについて、沖縄県西表島、座間味・阿嘉島でアンケートを実施し、その結果を集計したのち、考察を行った

ものである。観光化の影響を鮮明にするため、居住地域評価では観光化が進展していない粟国島にも同様なアンケートを行い、比較・検討した。

その結果は、次のようにまとめられる。

①居住島嶼に対する地域評価を集計した結果、観光化の進展による差異が明確に認められたのは、主に自然環境に関する質問である。すなわち、観光化が進展している西表島と座間味・阿嘉島は、観光化が進んでいない粟国島と比較して、島の自然景観や海洋生態系に対する自己評価が高かったが、その一方で海岸線やビーチが観光化により汚染されていると強く感じているのである。粟国島の自然景観や海洋生態系も素晴らしいものがあるので、専門家やマスコミ、観光客といった「外部の評価」の有無が住民の地域評価にも影響を与えているといえる。

②観光インパクトに関する評価を西表島と座間味・阿嘉島で比較してみたが、全ての質問への回答が、いずれも同じ傾向を示していることがわかった。すなわち、観光インパクトは若年層の増加による島の活性化や、全国の人々との交流といった社会的インパクトでは肯定的に評価されたが、半面、観光化が自然環境を破壊しているという負の環境的インパクトや、観光化による雇用の増大は認めるが、所得増加の恩恵は住民に行き渡っていないという経済的インパクトに対しては否定的評価が強く、最終的には、観光化への総合評価は肯定・否定相半ばである。

③以上のような観光インパクトに対する島嶼居住民による評価が、性別や年齢階級など住民特性の同質グループ間で差異があるかを、統計的に検定を行った。その結果、居住地域に対する評価も、観光インパクトに関する評価も、大きく二つの住民グループにより評価が異なることが明らかになった。すなわち、年齢が若くて島での居住歴が短い県外出身者である新住民グループと、高齢で島での居住歴が長い島内出身者である旧住民グループである。一般的に、旧住民の方が現状に肯定的で満足している傾向がみられる。

研究対象島嶼の西表島・座間味島は、すでに住民の価値観や経済的状況が

等質的な島嶼ではない。島は出身地や就業業種、そして価値観が多様な住民で構成されている。そのため、観光インパクトの評価も多様なものとなった。全体的に観光インパクトに対して、地域住民の評価は肯定・否定が相半ばであった。特に、環境的インパクトや経済的インパクトに対する否定的な評価が強かったが、これをもって地域住民が島での観光そのものを否定している、と結論付けることはできない。あくまでも、島で行われている観光の現状に対して不満を表明していると捉えるべきであろう。

環境的インパクトの評価では、評価主体が認知しているその地域の過去の自然環境が、評価の基準となる場合が多い。そのため、「昔と比べたら今の自然環境は悪くなっている」という否定的評価が多くなる。人為により負荷がかけられた自然環境が、より良い状況になることはありえない。そこで問題は、自然環境の悪化が回復可能なレベルの範囲なのかどうかということになるが、その判断基準も評価主体間で異なっている。今回の調査では多くの人が回復できないほど自然環境が悪化していると感じているが、実態はどうなのか科学的な手法を用いた客観的な調査を継続的に行う必要があろう。その際、環境評価の結果を地域住民に積極的にフィードバックしていくことも大切である。

全ての住民を満足させる観光形態は存在しないが、今後、環境を保全しながら地域住民全体に経済効果を波及させる観光の仕組みを、地域住民を中心として、行政や研究者が連携を取りながら模索していくことが必要となろう。

本稿の作成にあたっては、西表島、座間味島、阿嘉島、粟国島の住民の皆様にはアンケート調査でご協力いただきました。ここに深く感謝の意を表わします。なお、本稿の骨子については、2002年度沖縄地理学会大会（於琉球大学）で発表しました。

文　献

国土交通省　2003.『観光白書　平成15年版』独立行政法人国立印刷局.

鶴田英一　1994. 観光地理学の現状と課題－日本と英語圏の研究の止揚に向けて－. 人文地理46：66-84.

直井岳人　2002. 観光地としての歴史的町並みの評価－倉敷美観地区の場合－. 岡山商科大社会総合研究所報23：85-98.

中川　大・波床正敏・加藤義彦　1998. 国際交通分析における利便性指標としての積み上げ所要時間に関する研究. 土木学会論文集482(VI-22): 21-30.

中崎　茂　1996. 観光の経済効果. 香川　眞編『現代観光研究』86-98. 嵯峨野書院.

中島正裕・千賀裕太郎・斎藤雪彦　2001. 農村地域における観光資源に対する来訪者の評価分析―長野県飯山市「なべくら高原 森の家」を事例として－. 農村計画学会誌20：197-202.

西岡久雄　1993. 観光地域の評価と観光施設の立地決定. 青山経済論集44：107-131.

日本交通公社　1971.『観光地の評価手法』日本交通公社.

丸井　博　1999. 伊豆半島における観光資源の比較評価. 帝京大学文学部紀要 教育学24：161-196.

溝尾良隆・大隅　昇　1983. 景観評価に関する地理学的研究－わが国の湖沼を事例にして. 人文地理35：40-56.

溝尾良隆・市原洋右・渡辺孝介・毛塚　宏　1975. 多次元解析による観光資源の評価. 地理学評論48：694-711.

宮内久光　1998. 島嶼地域におけるダイビンク観光地の形成と人口現象―沖縄県座間味村を事例として－. 琉球大学法文学部人間科学科紀要1：299-335.

宮内久光　1998. 沖縄県座間味村に嫁いだ県外出身女性の生活環境評価. 琉球大学法文学部人間科学科紀要2：171-192.

宮内久光　2000. 沖縄県離島から中心都市への近接性の測定とその変化. 沖縄地理5：21-41.

宮内久光　2003. 沖縄県におけるエコツーリズムに関する基礎的研究. 琉球大学法文学部人間科学科紀要11：83-121.

山村順次　1977. 第3節 観光. 経済地理学会編『経済地理学の成果と課題(第Ⅱ集)』203-214. 大明堂.

山村順次　1990.『観光地域論－地域形成と環境保全』古今書院.

俞炳強・広瀬牧人・渡久地朝明　2002. 沖縄における観光資源の評価情報に関する数量化分析. 産業総合研究10：81-99.

Marine Diving編集部　1995. ダイビング人気ランキングTOP100. Marine Diving270：186-191.